



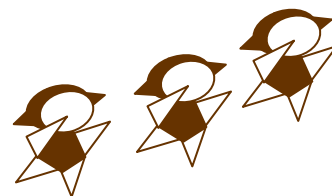
第2号

発行日

2009. 11

日本家族看護学会

ニュースレター



第16回学術集会を終えて

第16回学術集会を2009年9月5日（土）、6日（日）に飛騨高山市において、『家族看護実践の発展に求められる教育—基礎教育から専門看護師教育まで—』をメインテーマに開催させていただきました。790名の大勢の皆様のご参加をいただきました。当日はお天気にも恵まれましたので、高山の散策も楽しめましたでしょうか。

高山は観光地とはいえ、名古屋から特急で2時間という遠路に大勢の方にご参加いただけましたことに感謝いたしております。会場が市民文化会館で、学術集会を行うにはちょっと使いづらい面があり、ご不便をおかけした点もあるかと存じます。お詫び申し上げます。

今回の学術集会では、一般演題は116題（講演43題、ポスター73題）、ビデオ発表6題と過去最高の演題をご発表いただき、家族看護への関心の高まりを感じております。また、ビデオセッションを始めて試みましたが、ご参加の皆様からはわかりやすかった、よかったというご意見を頂き、安堵しております。

プログラムは、そのほか特別講演、教育講演、シンポジウムに、テーマセッション8つ、ランチョンセミナーを2つ開会しました。どの会場も活発な意見交換が行われてお

りました。セッションが多く設けられましたのは、会員の皆様の日頃の活発な実践・研究・教育活動の成果と思われる。

発表者、講師の皆様、企画・運営に携わっていただきました多くの皆様方に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。また、高山のコンベンションにも多大なご支援を頂きましたことを書き添えておきます。

岐阜県立看護大学 泊祐子



泊 祐子学会長

日本家族看護学会 第17回学術集会のご案内

テーマ

家族看護実践にいかす“研究”

会長 山口桂子
(愛知県立大学看護学部)

会期 2009年9月18日(土)
19日(日)

場所 愛知県産業労働センター
(愛知県名古屋市)

参

加

記

家族看護の広さ

愛知医科大学看護学部 甲村朋子

家族看護実践の発展に求められる教育をテーマに第16回日本家族看護学会が開催された。私は今回スタッフとして学術集会に参加をさせて頂いた。普段は老年領域を中心として看護に携わっているが、スタッフには様々な領域の看護師や先生方がおり、やはりどの発達段階においても家族との関わりを考えることが重要であるということに改めて学ぶことができた。またスタッフと様々な交流の中から、今後の看護に対しての新たな視点を持つことができたように思う。またそうした機会を得られたことは大変幸運なことであったと思う。この機会を頂きましたことを感謝いたします。ありがとうございました。

第16回日本家族看護学会に参加して

岐阜大学医学部附属病院 河村昌子

さわやかな澄んだ空気が気持ちいい初秋、9月5日から6日の2日間、高山市民文化会館で日本家族看護学会が開催されました。示説発表もさせて頂きましたが、実行委員のお役も頂き、学会の裏側も見せていただきました。

初めて学会の実行委員の役割を頂き、十分役割が果たせるのかと、始めは緊張と不安でいっぱいでした。しかし、気さくなで、話しやすい方々ばかりで、次第に緊張や不安はなくなり、実行委員として楽しく仕事ができるようになりました。実行委員をすることで、普段なかなかお話しする機会のない方々と親しくお話しさせていただき、充実した時間を過ごすことができました。また、学会がスムーズに運営できるようにという目線から会場をつくったりという貴重な体験をさせて頂きました。一方で、委員の方々のご

配慮のおかげで、学会の口説や示説など自分が興味ある発表も十分に聞くことができました。非常によい体験をさせて頂いたと感謝をしています。

私は示説発表をしましたが、口頭発表とは違い、個別で自由に時間をとることができたので、臨床や教育の方々から貴重なご意見やアドバイスをいただけました。さらに共通した体験について情報を共有でき、とても勉強になりました。これらの収穫は今後の看護に役立てたいと思います。

今回、初めてビデオセッションがあったのですが、これも大変勉強になりました。実際の映像を見ることは、自分が看護する時のイメージが造りやすく、患者さまやそのご家族の方に説明する時のポイントや説明する技術を知ることができました。

学会に参加させて頂き、いっぱい刺激をもらい勉強をさせて頂きました。家族看護についてももっと勉強をしたいと思う充実した2日間でした。

ありがとうございました。

自分の課題が明確になった学会参加

滋賀県立成人病センター 緩和ケア病棟
西田浩美

私は緩和ケア病棟に勤務しています。初めて家族看護学会に参加させていただきました。

ここ数年で、入院患者様の高齢化はさらに進んでいます。勤務していて、感じているのは、高齢化に伴い、介護する家族にも看護が必要になってきているということです。実際、認知症の付き添い家族さんの内服管理も家族ケアとして行なったことがありました。

緩和ケアでは看護の対象を患者とその家族と定義していますので、家族へのケアは当たり前のことといわれればそうですが、一般病棟においても家族への細かい配慮がなされていると痛感しました。

私たちの病棟ではグリーンケアの一環として、患者さんが死亡退院された3~4ヵ月後にキーパーソンであった家族に対して、お手紙を郵送していますが、実際、配偶者又はキーパーソンのその後の生活の追跡調査などは行なっておりませんでした。しかし、今回の発表の中に、ケアマネジャーによる家族の生活追跡調査が発表されていました。患者さんが死亡して1~2ヵ月後に高齢の家族は身体的・精神的体調の変化を感じているという結果が出ており、とても興味深く聞かせていただきました。今後、核家族化が進んでしまった日本の介護・看護のあり方は、今までとは違った視点で考えていく必要があると感じます。

家族規模が小さくなり、家族だけでは介護や生活ができていく患者様・ご家族に対して、どのような社会資源を活用していくのかを個々のケースで検討し、家族にわかりやすく、容易にできる看護の提供を考えていく時期が来ていると感じました。

初めての参加でしたが、今後自分の課題とするところが明確になり、有意義な学会となりました。今までに数々の研修に参加していますが、今回ほど自分にフィットしたものはなかったと心から感謝しております病棟のみんなと知識を共有し看護に活かしていきます。次年度も楽しみにしています。



ビデオセッションでの質疑応答の様子



第2回実践研究セミナーのご案内

日時：2010年1月31日（日）13:00~16:30

会場：東京医療保健大学看護学科

内容：

「家族看護に役立つ事例研究に挑戦するために」

第7回家族看護セミナーin 徳島のご案内

実行委員長：平岡峰子

（徳島大学病院 徳島家族看護実践研究会）

日時：平成21年12月6日（日）10:00 ~ 16:00

会場：徳島大学病院 西病棟11階

「日亜メディカルホール」